平成 22 年 10 月 14 日

シュレスタ・モティ・プラサド
九州産業大学（大学院）

もっと知りたいネパール

ネパールは南アジアの小王国であり現在はネパール共和国である。もともとインドと中国の間に挟まれた内陸国である。国民の約 3 分の 1 が貧困ライン以下の暮らしをしている。世界でも最も貧しく、発展していない国のひとつである。農業部門が経済の中心を担っており、ＧＮＰの約 40%を占めている。また工業は 10%を占めている。工業には促進に力が入れられているものの未発達で、家内工業、製造業（ジュート、木材、タバコ）である。輸出産品の代表は米、ジュートなどの農産物がある。また外貨獲得の主要な手段はヒマラヤなどを対象とする観光産業で、有望な産業である。ネパールは水力発電と観光業に対して外国投資を受入れることができる経済的な可能性に注目している。

ネパール共和国の概要

首都　：　カトマンズ
政体　：　立憲君主制　１９９０～
主要政党　：　ネパールコンゲレス党、共産党ＵＭＬ、コンゲレス民主党、国民主党など
宗教　：　ヒンドゥー教 80%、仏教 11%、イスラム教 4%など
国土面積　：　14.7 万平方キロメートル　　日本の 3 分の 1
人口　：　2900 万人（2007/2008 年度政府中央統計局推計）
国語　：　ネパール語
人種　：　ネパール語を母語とする民族（バウン、チェットリ、職業カースト等）に加えて、ネワール、グルン、マガール、タマン、ライ、など約 60 民族で構成される多民族社会で、民族は独自の言語と文化をもつ。各民族の母語は憲法第 6 条で「国民語」とされている。
通貨　：　1 ドル＝７８ルピー（１ルピー＝１．８円）
ＧＤＰ　：　約７８億ドル
人当たりＧＤＰ　：　340 ドル（2007/2008 年度政府中央統計局推計）